

広報

おおだて

6月16日号
(No.367)

5月

交通事故・件数19件(79)
傷者24人(98)
死者1人(3)
火災・件数4件(18)
救急・回数80件(352)
()内は今年1月から累計

編集と発行 大館市役所



▲昭和46年8月21日大館駅で大勢の市民の歓迎を受ける下川沿中女子バレーボール部員(右から5番目が武田さん)

市民と語る会

市では、市民の皆さんの生の声をお聞きし、市政に反映させるため「市民と語る会」を開催中です。
「住みよい大館市」をつくるため市民みなで大いに話しあいましょう。

地区	実施日	会場
長木	7月2日(月)	長木公民館
	3日(火)	大茂内会館
	5日(木)	塞神会館
	6日(金)	天下町児童館
真中	9日(月)	赤石会館
	16日(月)	板沢児童館
	17日(火)	櫃崎会館

時間 午後7時～9時

※この後の日程は次号で。

最終セット、8対14那珂中(福岡)のマッチポイント。これから8点連取して奇跡の大逆転勝利——昭和四十六年八月に開かれた第一回全日本中学生バレーボール選手権大会二回戦、この試合がいまでも忘れることができません。土壇場に迫り込まれた私たちは「負けてもともと、力いっぱいやれ」という監督の言葉で、一心同体となってプレーをすることができました。結果は私たちも信じられないアツという間の逆転劇でした。

福島監督の指導はたいへん厳しいものでした。ボールを使った練習はもとより、裏の新道山へのマラソン、綱のぼり、マット運動、そして逆立ち歩きとつらい練習の毎日でやめようと思ったことが何度もありました。しかし、これらの練習の成果と試合前の逆立ちが大観衆の声援の中でもあがらずにプレーすることができ、小さな学校のハンディをはねかえすことができたと思います。

当時の下川沿中女子バレーボール部は、福島次男監督のもと部員二十二名、うち三年生が十一人。全県大会で優勝後、全国大会に出場。一回戦は不戦勝。二回戦で逆転勝ちしてから準決勝までストレート勝ち。決勝では優勝候補の大船中(神奈川)をフルセット接戦の末破り、日本一に輝いた。



武田 君子さん
(旧姓佐藤・大坂・28歳)

下川沿中バレーボール日本一に

逆立ちでリラックス
逆転優勝を飾る